

## 授業カブラッシュアップ<sup>®</sup>研修会Ⅰ・Ⅱ



学習指導要領の趣旨や、学習定着度状況調査等の結果を踏まえ、授業における言語活動の充実に視点を置いた学習活動や学習評価の在り方等を改善するための提案授業・講義・演習を実施しました。

今回は、4つの研修会のうち小学校算数科と小学校道徳の研修会の様子を紹介します。

### 小学校 算数科

数学的な思考力・表現力を育てる算数科授業の在り方  
—協同的な学びと振り返りの工夫を通して—

#### (1)提案授業

「比例についてくわしく調べよう」第6学年  
授業者：奥州市立衣川小学校 教諭 五十嵐 智子  
助言者：県南教育事務所 指導主事 吉田 博昭

#### ★協同的な学びについて

- ・4人グループによる学び合いにおいて、個の学びを基本としながら、疑問やわからないこと等を自由に聞き合える体制を作ることで、学びの環境に安心感を与え学習に打ち込むことができます。
- ・研究協議では、グループ学習のねらいや視点を明確にすることで、互いに関わり合う必然性が生まれ、そこから深まりや高まりにつながることを確認できました。



#### ★振り返りについて

- ・日常生活と算数との関わりや算数のよさについて考えさせる視点を意識した振り返りの在り方を提案しました。振り返りを積み重ねていくことで、子どもたちが算数のよさや価値、日常生活への活用等に気付く力が身に付いてきました。

#### (2)講義

『全国学調から見える課題と授業改善』

講師：県南教育事務所 指導主事 吉田 博昭

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から課題を確認するとともに、授業改善について国立教育政策研究所発行の授業アイデア例をもとに講義を行いました。

特に、これまでの調査においても課題であった基準量、比較量、割合の関係の理解については、□を使ったかけ算の式に表したうえで基準量を求めることや、2本の数直線を活用し、矢印を書き込ませながら、基準量と比較量の関係を捉えさせること、日頃から数直線を「思考の道具」「説明の道具」として、かいたり操作したりして活用させることがポイントとなります。

### 小学校 道徳

好ましい人間関係をつむぐ授業

#### (1)提案授業

「陽子とひとみ(みんなのどうとく6年・学研)」第6学年  
授業者：奥州市立水沢小学校 教諭 村上 和也  
助言者：県南教育事務所 指導主事 八木 浩司

#### ★考えを書く活動の工夫

- ・ねらいにせまるために書くことが大切です。授業では、自己の生き方についての考えを深めることをねらいとして設定しました。書くことによって、児童は自分の考えを整理したり、振り返ったりすることができます。また、教師の見取りも確かなものになります。

#### ★友達の考えを解釈する場の設定

- ・授業で大切にすることは、道徳的価値の意義や大切さの理解と道徳的態度へつなぐことです。中でも、道徳的価値の意義や大切さの理解では、①道徳的価値の理解、②道徳的価値は大切でもなかなか実現できない人間としての弱さの理解、③道徳的価値の感じ方や考え方は多様であるという他者の理解を考える場面を設定しました。今回は中学校への接続期にあることを踏まえて、好ましい人間関係をつむぐために他者を慮って言葉にする③を重点としました。



#### (2)講義

『教科化を見据えて、いま取り組む道徳教育

～「考え、議論する」道徳科の展開～』

講師：秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威

「特別の教科 道徳」として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正が行われました。キーワードは「考え、議論する」授業展開。講義の中では、複数の質問に参加者が考え答えていく中で、他の参加者との考え方の違い(人間理解・他者理解)や自分自身を見つめ直す(自己理解)機会になることを実感していました。多様な価値観の存在を前提に、子どもが他者や自己と対話しながら物事をとらえたり、考えたりする機会を設定し、多様な感じ方や考え方に触れさせる授業を工夫することが大切です。